

2007年5月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

D.N.A

2003年4月にヒトゲノム(D.N.A)、人間全遺伝情報が読み終わって4年が経ちましたが、人間歯科学情報の進展や読み終わりはありません。

私たちの仕事の情報は、繰り返しの積み重ねによって歯科 D.N.A という螺旋階段が出来るのかも知れません。むしろ新たに作り上げたり読み取りをするというよりは、D.N.A をつぶさない様に常に努力が必要だということでしょう。

SASUKE

T.B.S の運動能力を競うバラエティー人気番組の「SASUKE」では、よく事故が発生しないものだと感心して見ていたが、捻挫や脱臼だけでなく複雑骨折をおこしていたことがわかった。出場者は最悪の事態を予測していたでしょうが、「まさか自分が・・・」と思っていたことでしょう。

ボクシングやアメフトのようになハードなスポーツを行う際は、マウスピースの装着が義務づけられていることは承知のとおりです。歯を保護するだけでなく、顎の骨折や口腔内裂傷の防止に大きな役割をはたしているということです。特に脳震盪の予防には欠かせないといわれています。

マウスピースはガードすることを目的とするために、個人の歯形に合わせて作り、歯列にぴったりはめ込む必要があります、主に上顎に装着しますが、噛むためのものではありません。

ナイトガード・テンプレート・リテーナー・クリアアライナーなどマウスピース型の応用品は増加の一途をたどっているとも言われています。

CAM CAM

ポリイソプレングムの表示があるチューイングブラシが 30 年近くの間、問題視されずに歯科医院に流通していたことに驚きの声を上げる先生もおられるが、初期のシリコーンはもっと品質が悪く、試験の段階で中止されたものが多い。試作品まで進んだものも数種類あったが、いずれも口腔内に入れたり「かむ」ことができる状態にはならなかった。

実はポリイソプレングムについては、15 年程前に保健婦さんや看護婦さんへの講演会場で安全性についての質問がありました。複数項目の Data をとっている時でもあり、特に異常を認めていない旨を伝えるに止めていました。

材質研究を第一の問題へ戻した決定的な発言は、開発時より協力を得ていた歯科衛生士の 20 年目の質問となった「それでも本当に大丈夫といえるか」であった。20 年間に約 600 名の子どもたちの追跡記録では、特異例や副作用らしき反応はまったくなく、むしろ噛む・咬むという動作が、1 日 20 分でも 1 ヶ月では 600 分かむことになり、そのかむという動作が口腔内の歯列や咬合を形成し、歯質や歯肉を強化するだけでなく、全身的に発育・成長を促しているという事実が克明に記録されていることから、振り出しに戻るべきか否かを悩んだ。しかし、オーストラリアの Dr. Kevin Baurke やスタッフから、これ以上ポリイソプレングムにこだわらず安心して、安全に CAM CAM できる材質にすべきであるとの意見と合わせて、実行に移ったのです。

元通産省工業技術院専門委員と出会え、協力を得ることができて、人体に全く害を及ぼさず、硬さも自由に選べる特殊シリコーンを手に入れることが可能になりました。

咀嚼学習やトレーニング効果の高いデザインを数回画き直し、金型に時間をかけて特殊シリコーンの性能を 100%引き出すことのできる最新のデザインで「チューイング マスター CAM CAM」が完成しました。

『人体（口腔内環境）だけでなく地球環境に優しい』ことをスローガンに研究開発を続けている株式会社 エーデンタルにとっても大ヒットとなりました。

地球上での美容と健康だけでなく、宇宙での口腔疾患の予防と咀嚼筋肉トレーナーとしても活躍することを夢んでいます。